

設置された説明板と石碑の前で校歌を演奏する児童
(京都市上京区・正親小)



お散歩で「源氏物語」知ろう

京都市は二十四日、源氏 えてい。第一号の「平安物語千年紀を記念した「ゆ宮大蔵省跡・大宿直跡」にかりの地」説明板の最初のは諸国からの貢ぎ物を収め一基を上京区の正親小に設た大蔵省や内裏を警護する置した。三十一日までに、役人が詰めた大宿直があつ全四十カ所の設置を終えるたという。

この日は午前十時から児童二十一人が校歌を演奏し説明板は発掘調査などで、完成を祝った。京都市は

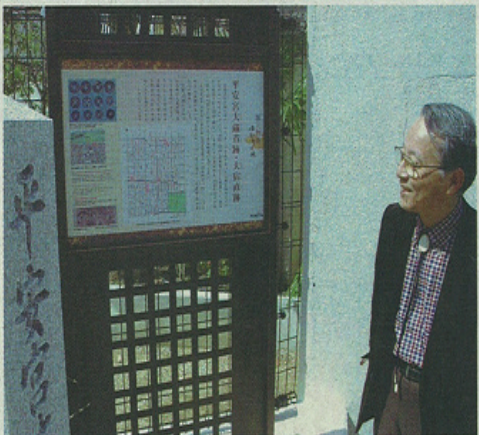
ゆかりの地に説明板 上京に「第1号」設置

京都市

歴史が確定している場所を四月以降、ゆかりの地を紹中心に建てられる。平安時代の官庁街・平安宮の役所プラリーを計画している。や作者の紫式部、同時代の最高権力者藤原道長に関係する場所が選ばれた。寝殿造りの部戸をイメーす石碑を建立しており、最ジした暗褐色で、出土遺物の写真や復元イラストも添に完成した。

源氏物語ゆかり 40か所

お披露目された説明板の出来栄を確認する藤谷教授（上京区の正親小学校で）



説明板第1号除幕

正親小

源氏物語千年紀にちなみ、京都市が、市内40か所の源氏物語ゆかりの地に設置する説明板の第1号が24日、市立正親小学校（上京区）の敷地内に完成した。市は今月中に残り39か所を整備し、スタンプラリーなどを実施、新たな観光ルートとしてPRしていく。

京都市、新観光ルートに



校歌を合奏して説明板の完成を祝う正親小の児童ら

設置場所は発掘調査などに基づいて選定。説明板の枠はステンレス製で、平安時代の部戸をデザインした。説明文については同校社女子大の藤谷寿教授（日本古代史）が指導した。英語などの訳文も掲載し、総事業費は約800万円。

同小は、税として納められた物品を保管した平安宮大蔵省の倉庫と、内裏の警護人の詰め所があったとされ、説明板では、詰め所が1014年に焼失したことや、税について「官人給与の禄や様々な財源に充てられた」などと解説。当時の通貨の写真や平安宮を再現したイラスト、絵巻物の資料などを使い、背景などを

わかりやすく説明している。

除幕式では、同小の小上

嗣徳校長が「この地が長い歴史と伝統に息づいていることを子供たちに伝えてい完成を祝った。」